



陸上の部の訓練「応用登はん」



水上の部で競技する消防救助隊員

兵庫消防

発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通6丁目3番28号
編集発行人 安 満 真 哉

二〇二五年
全国統一防火標語
急ぐ日も
足止め火を止め
準備よし

鍛え抜かれた技術を披露



陸上の部の訓練「はしで登はん」

会を通して新たに紡がれる「絆」が、つながることにより、復興から新たな発展に向けた勇気と力になることへの願いが表現されたものです。

大会は、日本全国九地区支部七二〇の消防本部から選抜された約九八〇名の隊員が参加し、高所に張られたロープを渡ったり、低所から要救助

者を救出するなどの行動が取り入れられた「陸上の部」や、水中の行方不明者や溺れた人の捜索、救出を想定した「水上の部」など計一四の訓練種目で、鍛えぬかれた技術が披露されました。

また、会場にはVR技術を取り入れた地震車による地震体験、AR技術を活用した煙体験など、災害を五感でとらえて、我がこととして災害を体験できる防災イベントコーナーが開催され、多くの親子

第五十三回全国消防救助技術大会が兵庫で開催

令和七年八月三〇日(土)、全国の消防救助隊員が一堂に集い、日ごろ鍛えられた救助技術を披露し、その技術を競いあう「第五十三回全国消防救助技術大会」が、県立広域防災センターにおいて、開催されました。

この大会は一九七二年の第一回大会以来、半世紀以上にわたり続いてきた大会ですが、阪神・淡路大震災から三〇年となる今年、兵庫県で開催するのはこびとなりました。

今大会では、「Go Forward More」「絆」とともに「」のスローガンが定められました。これは、震災を経験し、多くの困難を乗り越えるなかで紡がれてきた「絆」と、大

連れが参加されていました。

残暑が続く中ではありましたが、多くのご来賓と来場いただいた皆さまなど、延べ約一万二千人の方々にご来場いただき、大盛況の下、閉

者。また、会場にはVR技術を取り入れた地震車による地震体験、AR技術を活用した煙体験など、災害を五感でとらえて、我がこととして災害を体験できる防災イベントコーナーが開催され、多くの親子



陸上の部の訓練「ほふく救出」



日頃の訓練成果を発表する消防救助隊員



地震車による地震体験



阪神・淡路大震災のパネル展示



消防庁長官による祝辞



齋藤元彦知事による祝辞



慰霊碑

第四四回全国消防殉職者慰霊祭 式次第

開式のことば

御霊の奉納

国歌斉唱

消防殉職者に対する黙とう

式 辞 (公財) 日本消防協会会長 秋本 敏文

追悼のことば 内 閣 総 理 大 臣 石 破 茂

総 務 大 臣 村 上 誠 一 郎

ご 遺 族 代 表 青 木 由 美

献花

鎮魂の歌 (木遣り)

会長あいさつ

閉式のことば

(式典協力)

献花補助…… (一社) 東京都消防協会
(板橋消防団、志村消防団)

演 奏…… 東京消防庁音楽隊

木 遣 り…… (鎮魂の歌) (一社) 江戸消防記念会



第四四回全国消防殉職者慰霊祭

慰霊祭会場

第四四回全国消防殉職者慰霊祭が、令和七年九月一日(木)、日本消防会館館内ニッショーホールにおいて、厳粛に執り行われました。

本慰霊祭において合祀されている御霊は、生前に郷土愛護の精神に燃え、住民の生命、身体及び財産を災害から守るため、身を挺し消防・救急活動を行い、殉職された全国の消防団員・職員及び一般協力者の方々です。

昭和五七年以来、毎年、全国消防殉職者慰霊祭が行われており、本年は五柱の御霊が新たに合祀され、明治五年からの消防殉職者等の御霊は、五、七九五柱となりました。

兵庫県からはご遺族二名の他、安満会長をはじめ四名の関係者が参列しました。

御霊の奉納、国歌斉唱、黙祷、秋本日本消防協会会長の式辞、そして内閣総理大臣、総務大臣の追悼のことばに続き、遺族代表による追悼のことばがありました。

その後は参列者が個人の冥福を祈り献花を行い、江戸消防記念会から鎮魂の歌(木遣り)が披露され、式典は厳かに終了しました。



選手集合写真



激励交流会



競技をする選手



県代表による放水の様子



第二六回全国女性 消防操法大会開催！

第二六回全国女性消防操法大会が、令和七年一〇月二八日(火)に神奈川県横浜市の横浜赤レンガ倉庫イベント広場において開催されました。

本大会は、女性消防隊の消防技術向上と士気の高揚を図り、もって地域における消防活動の充実に寄与することを目的として、隔年で開催されています。四七都道府県から代表となった女性消防団員が、それぞれ訓練を重ね、安全で確実に、迅速な行動を基本とした軽可搬ポンプによる基本

操作の技術等を競いました。

兵庫県代表として、姫路大学女性消防隊が出場し、すばらしい操法を披露されました。

大会当日はやはり緊張されている様子でしたが、タイム五四・八五秒、総合得点六八・五点という成績を収められました。姫路大学女性消防隊の皆様は、操法経験ゼロからのスタートでしたが、県代表として出場が決定してから当日まで、一生懸命訓練を重ねてこられました。

なお、本大会は激戦の結果、

タイム四九・二九秒、総合得点九〇点で千葉県柏市女性消防隊が優勝しました。

選手の皆様だけでなく、団長をはじめ幹部の皆様、サポートされている団員の皆様、姫路市消防局の皆様、そしてそれぞれのご家族が一丸となり、チームを支えてこられました。この日に向けて練習に励んでこられた選手の皆様、選手を支えられたご家族や関係者の皆様、お疲れ様でした。

【参考】

<https://www.hyogoshoubou.jp/hvfc/event/>

一斉放水訓練



第九〇期 初任教育査閲・卒業式



卒業式

第九〇期初任教育生
スローガン

百鍊成鋼～訓練に終わりなし～



救助訓練(スローガンと整列)

令和七年九月二〇日、兵庫
県消防学校にて第九〇期初任
教育査閲が執り行われました。
一五七名の教育生たちは、
半年間厳しい訓練を積み重ね、
その逞しく成長した姿をご家
族をはじめ関係来賓の皆さま、
そして各消防本部の消防長を
前に、余すところなく披露し
ました。そして査閲を終えた
教育生達は、九月二五日に卒
業式を迎え、学校長から学生
に卒業証書が授与されたほか
優秀な成績を修めた学生への
表彰及び褒状の授与が行われ、
教育生達はそれぞれの所属に
おいて「消防人」としての新
たな一歩を踏み出しました。



火災対応訓練

安満県消防協会長による
励ましのことば

消防機器取扱い訓練

字熟語です。
教育生たちは、数々の厳し
い訓練の中で体力の限界を感
じ、気持ちで負けそうになる
時もお互いに励まし合い常に
前を向き、心をひとつに乗り
越えてきました。訓練を重ね
るごとに消防士に課せられた
使命と責任の重さを強く感じ
るとともに、人を助けること
の難しさを実感し、その時心



一斉放水訓練

に刻んだ言葉がこの「百鍊成
鋼」という四字熟語だったそ
うです。
この言葉を胸に刻んだ第九
〇期一五七名の消防士たちは、
これから現場の最前線におい
て消防士としての使命を果た
すため、情熱と厳格な熱意を
持って、努力を続けてくれる
ことでしょう。



初任教育生代表による答辞

卒業証書授与

令和七年度救急救命士養成課程入校式が挙行!



救急救命士養成課程入校 集合写真

未来の救急医療を担う 県内消防本部職員四四名が 新たな一歩を踏み出す

令和七年九月一日、県立広域防災センター消防学校において、令和七年度救急救命士養成課程の入校式が執り行われました。入校式では第二期生として入校された教育生（県内消防本部の職員）四四名のほか、県幹部職員や各消防長、そして、県内の救急医療機関で活躍の医師等、関係者の皆様が参列し、未来の救急救命士達の門出を祝福しました。

本課程に入校された教育生は、来年三月に実施される救急救命士国家試験合格に向け、七か月間で医学的知識の習得や、病院での実習、実技訓練等のカリキュラムを修了します。

今回入校された四四名の皆さんが目指す『救急救命士』とは、救急現場や救急車内で重度の傷病者や、生命が危険な状態にある場合に、医師の指示に基づいて処置を行っており、こうした救急救命士による救急現場での活躍により、搬送される患者の生存率向上等に繋がっています。



入校の様子

緊急性の高い場面において、高度な医療行為を行うことができる救急救命士には、地域の安全・安心を支える存在として、県民からも大きな期待が寄せられています。

入校式の中で行われた教育生宣誓では、総代の淡路広域消防事務組合消防本部所属の太田幸宏消防司令補により、入校にあたっての決意が声高らかに述べられ、救急救命士として人命を救う未来を見据え、勉学に励むという決意が

垣間見えました。

今回、入校された皆さんには、研修期間で日々お互いに切磋琢磨しながら、医療行為を安全かつ的確に行うことができる知識や技術を身に付け、国家試験合格後はそれぞれの救急現場で、高度な医療知識を持つ専門的な人材として活躍されることを祈念しております。



教育生宣誓

兵庫県では#7119を全県で実施しています 救急車の適正利用にご協力ください

急な病気やケガ... 救急車を呼ぶべき? 病院に? 迷ったら... どうしよう...

救急安心センターひょうご

24時間 365日対応

救急医療相談 医療機関案内ダイヤル

シーブ ナナ イチ イチ キュー

#7119

救急車を呼ぶべきかどうか、どの医療機関をいつ受診すればよいかわからない時に、24時間いつでも相談を受け付ける専用ダイヤルです。

直達ダイヤル ☎078-331-7119

※が電話及び市外局番が068または072の固定電話等からは、緊急ダイヤルにおかけください。

救急医療相談 医療機関案内

緊急性や受診の必要性についてアドバイス 受診可能な医療機関の案内

2025年7月11日(午前9時)から兵庫県全域で#7119が利用できます

救急安心センターひょうご運営委員会 (構成：兵庫県内消防本部)

たとえほんのひととき

■ 熱が下がらない ■ 急にお腹が痛くなった ■ 夜中にけがをしまった

相談の流れ

#7119に電話する

※通話料が無料です。通話料が有料な場合は、通話料を支払ってください。

救急医療相談 医療機関案内

相談員が対応 (看護師、医師、救急救命士)

■ 救急やけがの状況を把握 ■ 医療機関について案内

受診できる医療機関を案内

■ 受診するタイミングをアドバイス

119番を案内

■ 119番に緊急度が高い場合は、そのまゝ119番へ電話転送

※119番に転送後は、119番の指示に従ってください。

※通話料は無料ですが、通話料は別途発生します。

※通話中、通話中に通話料がかかります。

救急車を呼ぶべきかどうか、どの医療機関をいつ受診すればよいかわからない時に、24時間いつでも相談を受け付ける専用ダイヤルです。

救急安心センターひょうご運営委員会 (構成：兵庫県内消防本部)

#7119チラシ

消防団ピックアップ

『継続は力なり!』

加古川市消防団

加古川市は、県南部の播磨灘に面し、播磨平野を貫流する県下最大の河川「加古川」河口に広がる豊かな自然に囲まれた地域です。沿岸部は、製鉄所を中心に石油コンビナートの重工業地帯が広がり、播磨臨海工業地帯の一翼を担っています。一方、内陸部では、伝統を生かした靴下や毛織物など特色のある地場産業が営まれています。

加古川市消防団は、現在、女性分団、企業連携消防団員を含め一団本部、一九分団で構成され、定数一、二〇〇名となっています。

車両は、消防ポンプ自動車一八台、小型動力ポンプ付積載車一八台、指揮広報車一台を配備し、市民生活の安全・安心を確保するため、災害対応以外にも地域内での広報活動や自主防災組織への訓練指導を行うとともに、消防団活動への理解と普及啓発に努め、地域防災のリーダーとして重要な役割を果たしています。

例年、加古川市消防団では、出初め式や文化財防火デー消防訓練への参加のほか、団幹部と新入団員を対象とした礼式訓練や女性消防団員が講師となつて行う消防団救命講習会、常備消防と合同による水防訓練や林野火災訓練を行っています。

また、各分団では、それぞれの担当地域の特性に応じた



礼式訓練

各種訓練の実施や地域行事へ参加協力し、住民との連携を図っています。

令和六年七月の兵庫県広域防災センターにおいて開催された「第三一回兵庫県消防法大会」では、加古川市消防団野口分団が東播磨地区の代表として「ポンプ自動車の部」に出場し、日々の訓練を継続した結果、加古川市消防団としては、五三年ぶりに見事準優勝を収めました!

令和七年度は、新たな取組として総務省消防庁に消防団等充実強化アドバイザー派遣を依頼し、大規模災害に備えて、災害現場での消防団のあり方、連携及び災害に備えた日常的な訓練方法、事前準備について学ぶ予定をしています。

今後は、地域の防災防犯力の向上のため、常備消防との連携はもちろんのこと、自主防災組織、地域住民との連携

『自分たちのまちは自分たちで守る 南あわじ市消防団』

南あわじ市消防団

南あわじ市は、淡路島の南部に位置し、平成一七年一月一日に、旧緑町、旧西淡町、旧三原町、旧南淡町の四町が合併して誕生しました。近畿地方でトップの農業産出額を誇り、淡路島三年トラフグやサクラマスなどのブランド商品をはじめとしたグルメの宝庫として、一次産業を活かした観光振興に力を入れています。

市内には年間約一八〇万人もの観光客が訪れ、神戸から約一時間、東京から飛行機で二時間半という好アクセスで関西の人気観光地として親しまれています。また、鳴門海峡のうず潮は「世界三大潮流」の一つといわれており、世界遺産登録を目指して、淡路島三市（淡路市・洲本市・南あわじ市）、兵庫県、徳島市、鳴門市、民間団体が協力し、様々な取組が行われています。

南あわじ市消防団は、井上英樹団長のもと、令和七年四月一日現在、四方面隊、五八分団、団員数二、一一八名（うち女性団員一六名）で構成され、住民の生命と財産を守るため、地域防災の要として、昼夜を問わず活動を行っています。ここで、南あわじ市消防団の活動について紹介させていただきます。

「消防団 初出式」

南あわじ市の消防力を披露し、地域住民の方に消防団活動への理解や信頼を深めていただくため、毎年一月第一日



消防団 初出式

団活動を継続して推進していきます。



文化財防火デー消防訓練



兵庫県消防操法大会

われら若手消防団員

～生まれ育った町のために～



太子町消防団
第三機動分団 団員
五百井 雄貴

私は令和六年度から太子町消防団第三機動分団に所属し、現在二年目になります。

これまで地域活動には積極的に参加していましたが、消防団については名前を知っている程度で特に興味はありませんでした。仕事と結婚を機に、地元に戻ったところ、知り合いに声をかけていただいたのが入団のきっかけです。

消防活動を一年半経験し、現場、パトロール等はもちろんのこと、操法大会ではポンプ車操法に二番



消防操法大会

曜日（正月三が日を除く）に開催しております。本年は五日に消防車両三八台、団員一、〇七〇名が参加しました。

「消防操法大会」

消防技術の向上と消防団員の士気・連携意識の高揚を図り消防団活動の強化と市民の理解を深めるため、毎年開催



総合防災訓練

しております。今年度は六月二九日に開催され、ポンプ車の部六チーム、小型ポンプの部八チームが出場し、息のあった消防操法を披露しました。来年度の県大会に向けて日々鍛錬を行なっています。

「総合防災訓練」

近い将来発生するとされる

南海トラフ地震を想定して、南あわじ市では、総合防災訓練を毎年実施しています。前年度の訓練内容は、火災が発生している建物内に要救助者が取り残されている想定で、消防団が水利を確保し、淡路広域消防が放水、救出するといった訓練を実施しました。

また、児童と一緒にポンプ放水体験や水消火器体験を実施しました。今年度は、一月一六日に市小学校で開催予定となっています。

火災のみならず、風水害対応、行方不明者捜索、自治会・自主防災会との訓練など、消防団の活動は多岐にわたります。団員確保、負担軽減、処遇改善などの課題も解決しながら、更なる充実強化を図り、地域の安心・安全に努めてまいります。

員で出場し、出初式では、はしご乗り演技も経験しました。操法大会の練習では、器具の取り扱いや動作を基礎から先輩方に教えていただき練習に励みました。団員同士で協力しながら、真剣に取り組むことで団結力が生まれ、有事の際に活かせることがわかり、普段の活動の重要性を感じました。

入団前は不安もありましたが、今では活動を通して消防団に対する見方も大きく変わり、私自身も先輩方のように知識や技術を身につけ、地域から信頼される団員になりたいと思います。

地域のつながりが希薄化する今、消防団のような組織や繋がりが有事の際、重要になると感じます。これからも、頼りになる先輩方や支えてくれる家族への感謝を忘れず、地元のために、精一杯活動に取り組んでいきたいと思っています。

わが町の団長さん

「時代に即した
消防団を目指して」

加西市消防団

甘中 直樹



加西市は兵庫県の南部、播磨平野のほぼ中央に位置し、豊かな歴史を伝承している法華山一乗寺、五百羅漢等の文化財と「花と緑のまち加西」にふさわしい県立フラワースタターがあることで広く知られています。

また、当市は台地上の平野が広がり、上空には比較的落ち着いた風が吹くなど気球のフライトに適しており、近年は全国から多くの気球チームが訪れています。

加西市消防団は、一二分団九八部、団員数一、〇五〇名で構成され、地域の安全を守る大切な役割を担い、火災や災害時の活動だけでなく、防火啓発や行事の安全警備などにも取り組んでいます。

甘中団長は、昭和六一年四月に入団され、平成三一年四月から副団長を経て、令和七年四月に団長に就任されました。

令和五年から消防操法大会の代わりに消防団主催の防災フェスティバルを開催しており、持ち前の行動力と統率力で来場者を楽しませる企画を提案し、抜群のリーダーシッ

プを発揮しています。

また、令和六年四月に「女性消防団」を設立、女性ならではの視点を生かし、地域での防火と応急手当の啓発など、住民の皆さんとより身近に関わる活動を進めています。

これからも甘中団長を中心に団員一丸となり、若い世代や子育て世代の方にも参加しやすい環境を整え、地域に密着した活動を展開してまいります。

「安全・安心な三田市
を目指して」

三田市消防団

辻本 實



三田市は、六甲山系の北側に位置し、神戸・大阪の都市圏に近接しながら、有馬富士や千丈寺湖などの自然に恵まれた、都市と農村の両面を持つ穏やかなまちです。恵まれた自然環境のなかで育てられた三田牛や三田米、黒大豆枝豆、母子茶など特産品も豊富です。

この三田市の安全・安心を支える三田市消防団は、七分団六六名の団員で構成されています。毎年春の消防大会では、団員による勇壮なはしご演技が市民の注目を集め、士気の高揚にもつながっています。

ます。

その先頭に立つのが、辻本団長です。昭和四八年の入団から、五二年間にわたって消防団活動にご尽力いただいており、令和六年一〇月に第一〇代三田市消防団長に就任されました。穏やかなお人柄と的確な判断力で団員からの信頼も厚く、若手育成や女性団員の活躍推進にも力を注いでおられます。

市内で火災が続いた際には、辻本団長自ら消防団広報車で市内広報に巡回されるなど、率先垂範の姿勢で三田市の安全のために取り組まれています。

「人と地域を結ぶ、
消防団の和」

丹波市消防団

青木 則明



丹波市は、兵庫県の中央東部に位置し、市内西部を南北に日本標準時子午線（東経一三五度線）が通っており、北東では京都府、南東では丹波篠山市、南西では多可町、南では西脇市、北西では朝来市と境を接しています。

市内の石生の「水分れ」は、海拔九五メートルに位置し、本州一低い中央分水界となっ

「消防団の
未来を見据えて」

加東市消防団

植田 竹吉



加東市は、兵庫県中央部よりやや南に位置する人口約四万人の市であり、令和八年三月二〇日をもって生誕二〇周年を迎えます。

「酒米の王様」と呼ばれ、日本農業遺産にも指定された山田錦の産地として知られる他、市内には多数のゴルフ場や、国宝「朝光寺」、「播州清水寺」、「東条湖おもちゃ王国」などの観光名所があり、休日には市外からお越しになる方も多く見られます。

加東市の誕生と同時に発足した加東市消防団は、各地区の分団の上に地域ごとの独自区分である「小隊」を設け、全一二小隊、七七分団、一〇八〇人の団員が市民の安全安心な暮らしを守るため活動しています。

植田竹吉団長は平成七年に市合併前の旧社町消防団に入団され、団員から分団長までを歴任された後、平成二二年から小隊長、平成二八年から副団長を務められ、その厳しくも温かい人柄への信頼の厚さにより、令和七年四月に加東市消防団長に就任されました。

植田団長は家族愛、郷土愛を最重視されており、かけがえのない家族、故郷を守るため、日々の訓練の精度を向上

させていくこと、また、消防

団の長い歴史を継承しつつ、時代に合わせ変革していくことを念頭に活動されています。その一例として、就任早々、迅速な消防活動の実現を目的とした消防団アプリの導入、各種訓練の実施内容見直しなど、数々の変革を実行されました。

また、消防団幹部や地元分団を率いて、市や地域等のイベントに積極的に参加され、未来の消防団員である子どもたちに、消防団のカッコよさを伝える広報活動にも尽力されています。

国内外で災害が頻発する中、消防団に課される役割、期待は大きくなっています。

植田新団長の指揮のもと、加東市消防団はこれからも地域に信頼され続ける消防団として活動していきます。

「団員のやりがい
を育むリーダー」

宍粟市消防団

松本 二郎



宍粟市は、鳥取県・岡山県と隣接した兵庫県中西部に位置し、東西約三二キロメートル、南北約四二キロメートルあり、面積は六五八平方キロメートルで、兵庫県下で二番目に広い市となります。その大きさは、滋賀県の琵琶湖とだいたい同じぐらいです。

また、市内には、数多くの史跡や神話・伝説が残ってい

ますが、奈良時代に編纂された「播磨の国風土記」に、宍粟市一宮町にある庭田神社といるところで、初めて麴を使ってお酒を造り、神様に献上した記述があることから、宍粟市は「日本酒発祥の地」と言われています。

宍粟市消防団は、一六名の団本部と四支団を構成する二六分団、五九部、団員数一〇四〇名の消防団です。

松本団長は、昭和六四年に入団され、一五年で分団長まで務め一度退団されましたが、その資質と人望を評価され、平成二一年に団幹部として再入団、副団長を一六年間務められた後、令和七年四月に三代目の宍粟市消防団長に就任されました。

松本団長が力を入れていることは、火災防御・災害防御に関する活動は当然ですが、消防団活動をPRする取り組みです。

団員の減少が続く消防団ですが、地域のため頑張っている団員を、動画や広報紙等を活用し市民にPRすることで、地域での理解を深め、活動が認められることで、団員のやりがいに繋がっていくと考えられています。

また、消防団活動中に限らず、善行があった分団や団員など、直接団員の意欲向上にも取り組まれています。

今後、火災だけでなく風水害・大地震などいっどこで起きるかわからない災害に対して、松本団長を中心に「自分たちのまちは、自分たちで守る」という理念のもと、一致団結して地域に密着した活動を実施していただきます。